

萬玉ヲモ不惜、又飢タル乞食、疲レタル訴訟人ナドヲ見テハ、分ニ隨ヒ品ニ依テ、米錢絹布ノ類ヲ與ヘケレバ、佛菩薩ノ悲願ニ均キ慈悲ニテゾ在ケル、○中略又或時、此青砥左衛門夜ニ入テ出仕シケルニ、イツモ燧袋ニ入テ持タル錢ヲ、十文取ハツシテ、滑河ヘゾ落シ入タリケルヲ、少事ノ物ナレバ、ヨシサテモアレカシトテコソ、行過ベカリシガ、以外ニ周章テ、其邊ノ町屋ヘ人ヲ走ラカシ、錢五十文ヲ以テ續松ヲ十把買テ則是ヲ燃シテ、遂ニ十文ノ錢ヲゾ求得タリケル、後日ニ是ヲ聞テ、十文ノ錢ヲ求メントテ、五十ニテ續松ヲ買テ燃シタルハ、小利大損哉ト笑ケレバ、青砥左衛門眉ヲ擧テ、サレバコソ御邊達ハ、愚ニテ世ノ費ヲモ不知、民ヲ惠ム心ナキ人ナレ、錢十文ハ只今不_レ求バ、滑河ノ底ニ沈テ、永ク失ヌベシ、某ガ續松ヲ買セツル五十ノ錢ハ、商人ノ家ニ止マテ、永不_レ失、我損ハ商人ノ利也、彼ト我ト何ノ差別カアル、彼此六十文ノ錢一ヲモ不_レ失、豈天下ノ利ニ非ズヤト爪彈ヲシテ申ケレバ、難ジテ笑ツル傍ノ人々、舌ヲ振テゾ感ジケル、

〔新編鎌倉志〕滑川

按ニ、二程全書ニ、程子昔シ雍華ノ間ニ遊關西ノ學者六七人從行、一日千錢ヲ亡フ、僕者ノ曰、晨裝ニ遺ルニ非ズ、必ズ水ヲ涉時ニ此ヲ沈ムルナラント、程子曰惜哉、或人ノ曰、是誠ニ可惜也、一人ノ曰、微ナル哉千錢、亦何ゾ惜ニ足、一人ノ曰、水中ト囊中ト、人亡フト人得ルト、以テ一視スベシ、何ゾ惜ベキ事ヲ歎ゼン、程子ノ曰、人苟ニ此ヲ得バ亡フニ非ズ、今迺チ水ニ墜バ用ナシ、吾是ヲ以此ヲ歎ズト云フ、是誠ニ異域同談ナリ、左衛門ガ心、能ク程子ニカナヘリ、

〔徒然草下〕相模守時頼○北條

の母は、松下禪尼とぞ申ける、守をいれ申さる、事有けるに、す、けた

るあかりさうじのやぶればかりを、禪尼手づから、小刀してきりまはしつ、はられければ、せうどの城介義景、其日のけいめいして候けるが給はりて、なにがし男にはらせ候はん、さやうの事に心得たる者に候と申されければ、其男尼が細工によもまさり侍らじとて、猶一聞づ、はられ